

家庭内暴力による頭部顔面外傷の4例

こ いけ たか し に しな まさ よし
小 池 尚 史^{1,2)} 仁 科 雅 良^{1,3)}
こ だに のぶ ひろ
小 谷 暢 啓^{1,3)}

キーワード：domestic violence (家庭内暴力), craniofacial injury (頭部顔面外傷),
Manual (マニュアル)

要 旨

近年、家庭内あるいは交際相手の暴力が社会問題となっている。医療機関は日常業務を行うなかで、このような暴力を発見しやすい立場にあることから、関係機関への通報や相談窓口の紹介など積極的に介入すべきである。しかし、救急外来の現場では時間的制約などのため苦慮することも多い。今回われわれは、家庭内暴力により頭部顔面外傷を受傷し、救急外来にて治療と対応を行った症例を4例経験した。全症例に対して、われわれ救急外来スタッフは、当院の医療安全管理・危機管理対応マニュアルに従って円滑な対応と治療を行った。救急を担当する医療者は、その対応によって被害者の安全を左右する非常に重要な立場にある。今回の症例を通じて、被害者の立場と希望を尊重した丁寧な対応と治療が重要であることを再認識した。

はじめに

家庭内暴力とは、一般的にはドメスティックバイオレンス (DV) と呼ばれ、近年では同居の有無を問わず、交際相手など近親者間に生じる暴力全般を指す場合が多くなってきた^{1,2)}。この家庭内暴力が広く国民に認知されるようになり、社会問題化してきている¹⁻⁴⁾。医療機関は家庭内暴力を発見しやすい立場にあることから、関係機関への通

報や相談窓口の紹介など積極的に介入すべきであると考えられている^{1,2)}。しかし、救急外来の現場では時間的制約などのため苦慮することも多い。今回われわれは、家庭内暴力による頭部顔面外傷を4例経験したので若干の考察を加えて報告する。

症 例

【症例1】交際相手からの家庭内暴力症例 (警察の介入を希望)

患者：20代、女性。

主訴：左上唇部の裂傷と左頬部の打撲傷。

現病歴：深夜1時頃、交際相手から左顔面を3発

Takashi KOIKE et al.

1) 島根大学医学部附属病院救命救急センター

2) 同 歯科口腔外科学講座 3) 同 救急医学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1